

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016 年 12 月 15 日(15.12.2016)



(10) 国際公開番号

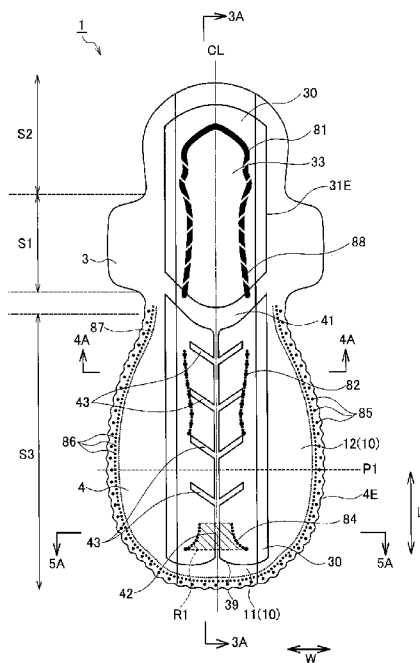
WO 2016/199614 A1

- (51) 国際特許分類:
A61F 13/472 (2006.01) A61F 13/533 (2006.01)
A61F 13/476 (2006.01) A61F 13/56 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2016/065937
- (22) 国際出願日: 2016 年 5 月 30 日(30.05.2016)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2015-116102 2015 年 6 月 8 日(08.06.2015) JP
- (71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社 (UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者: 西谷 和也 (NISHITANI, Kazuya); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 木下 英之 (KINOSHITA, Hideyuki); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).
- (74) 代理人: フェリシテ特許業務法人(FELICITE PATENT PROFESSIONAL CORPORATION); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目 5 番 1 号 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) Title: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品



(57) Abstract: Provided is an absorbent article that can alleviate irritation to the skin near the sacrum. This absorbent article (1) has a center region (S1) that is disposed under the crotch of a wearer, a rear-side region (S3) that is longer in a fore-aft direction (L) than the center region (S1), and an absorbent core (31) that is disposed in at least the rear-side region (S3). A hip flap (4) that bulges to the outside in the width direction (W) is provided in the rear-side region (S3), a pair of rear-side compression portions (84) that compress at least the absorbent core (31) and are provided so as to sandwich a center line (CL) and be spaced apart from each other are formed along the fore-aft direction (L) in the rear-side region (S3), the maximum width of the hip flap (4) is located further toward the rear than the center of the rear-side region (S3) in the fore-aft direction (L), the pair of rear-side compression portions (84) are located further toward the rear than the position (P1) of the maximum width of the hip flap (4), and the pair of rear-side compression portions (84) have a wide section in which the distance in the width direction W expands the further toward the rear side.

(57) 要約: 仙骨付近の皮膚に対する刺激を緩和することができる吸収性物品を提供する。吸収性物品(1)は、着用者の股下に配置される中央域(S1)と、中央域(S1)よりも前後方向(L)の長さが長い後側域(S3)と、少なくとも後側域(S3)に配置される吸収コア(31)と、を有し、後側域(S3)には、幅方向(W)の外側に膨らんだヒップフラップ(4)が設けられており、少なくとも吸収コア(31)を圧搾し、中心線(CL)を挟んで互いに離間して設けられた一対の後側圧搾部(84)が、後側域(S3)に前後方向(L)に沿って形成されており、ヒップフラップ(4)の最大幅は、前後方向(L)における後側域(S3)の中央

よりも後側に位置しており、一対の後側圧搾部(84)は、ヒップフラップ(4)の最大幅の位置(P1)よりも後側に位置し、一対の後側圧搾部(84)は、後側に向かうにつれて幅方向Wの距離が広がる幅広区間を有する。

WO 2016/199614 A1



添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

— 補正された請求の範囲 (条約第 19 条(1))

明 細 書

発明の名称： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、生理用ナプキン等の吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 経血やおりものなどを吸収するための生理用ナプキン、パンティーライナー、失禁パッド等の吸収性物品が知られている。吸収性物品のうち特に生理用ナプキンは、下着により着用者の体の方に押し当てられ、着用者の体にフィットされるようにして使用される。特許文献1は、経血やおりものなどを吸収するための生理用ナプキン、パンティーライナー、失禁パッド等の吸収性物品を開示している。吸収性物品は、表面シート、裏面シート及び吸収体を有する。吸収体は、表面シートと裏面シートとの間に設けられている。吸収性物品は、少なくとも表面シートと吸収体とを圧搾したエンボスパターンを有する。エンボスパターンは、着用時に吸収性物品、特に吸収体の曲がり方を制御するように形成される。特許文献1では、臀部の溝（臀裂）に確実にフィットするとともに、就寝時の臀部の潰れに対応してフィットできるようにするために、エンボスパターンが形成されている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2011-156070号公報

発明の概要

[0004] 本願の発明者は、例えば使い捨てナプキンのような吸収性物品について、以下のような課題を発見した。吸収性物品の前後方向の後端部付近は、着用者の仙骨の位置に相当する。人の仙骨周辺は突出しており、仙骨の位置における脂肪や筋肉は薄い。したがって、人の仙骨付近の部分は柔らかく、吸収性物品が仙骨付近の皮膚に刺激を与えることがある。

[0005] そこで、本発明は、上述の課題に鑑みてなされたものであり、仙骨付近の

皮膚に対する刺激を緩和できる吸収性物品を提供することを目的とする。

[0006] 本開示に係る吸収性物品は、互いに直交する前後方向及び幅方向と、着用者の股下に配置される中央域と、前記中央域の後側に位置し、前記中央域よりも前後方向の長さが長い後側域と、少なくとも前記後側域に配置される吸収コアと、を有し、前記後側域には、前記幅方向の外側に膨らんだヒップフラップが設けられており、少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記吸収性物品の前記幅方向の中心を通る中心線を挟んで互いに離間して設けられた一対の後側圧搾部が、前記後側域に前記前後方向に沿って形成されており、前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅は、前記前後方向における前記後側域の中央よりも後側に位置しており、前記一対の後側圧搾部は、前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅の位置よりも後側に位置し、前記一対の後側圧搾部は、後側に向かうにつれて前記幅方向の距離が広がる幅広区間を有する。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]一実施形態における吸収性物品の平面図である。

[図2]図1とは反対側から見た吸収性物品の平面図である。

[図3]図1の3A-3A線に沿った吸収性物品の断面図である。

[図4]図1の4A-4A線に沿った着用中の吸収性物品の断面図である。

[図5]図1の5A-5A線に沿った着用中の吸収性物品の断面図である。

[図6]別の実施形態における吸収性物品の平面図である。

[図7]さらに別の実施形態における吸収性物品の平面図である。

発明を実施するための形態

[0008] 以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品について説明する。吸収性物品は、パンティーライナー（おりものシート）や生理用ナプキンや失禁パッド等の任意の吸収性物品であってよい。以下の実施形態では、吸収性物品の一例として使い捨ての生理用ナプキンについて説明する。

[0009] なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率

等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0010] (1) 吸収性物品の全体的構成

図1は、一実施形態における吸収性物品の平面図である。図2は、図1とは反対側から見た吸収性物品の平面図である。図3は、図1の3A-3A線に沿った吸収性物品の断面図である。

[0011] 吸収性物品1は、着用者の前側（腹側）及び後側（背側）に延びる前後方向Lと、前後方向Lと直交する幅方向Wと、着用者の肌対向面側T1から非肌対向面側T2へ延びる厚み方向Tと、を有する。肌対向面側T1は、使用時に、着用者の肌に対向する側に相当する。非肌対向面側T2は、肌対向面側T1とは反対側に相当する。

[0012] 吸収性物品1は、中央域S1、前側域S2及び後側域S3を有する。中央域S1は、着用者の排泄口（例えば膣口）に当接する領域に位置する。中央域S1は、吸収性物品が下着に装着された状態で、下着の股下部に位置する領域である。つまり、中央域は、着用者の股下、すなわち着用者の両足の間に配置される領域である。前側域S2は、中央域S1よりも前側に位置する。後側域S3は、中央域S1よりも後側に位置する。後側域S3の前後方向Lの長さは、中央域S1の前後方向Lの長さよりも長くなってよい。

[0013] 中央域S1には、後述するウイング3が設けられていてよい。この場合、中央域S1は、前後方向Lにおいてウイング3が設けられている領域とも言える。また、後側域S3には、幅方向Wの外側に膨らんだヒップフラップ4が設けられていてよい。

[0014] 中央域S1と後側域S3の境界に、後述する幅スリット41が設けられていてよい。この場合、幅スリット41の前端縁が中央域S1の後端縁を規定してもよく、幅スリット41の後端縁が後側域S3の前端縁を規定してもよい。

[0015] 後側域S3の後端縁は吸収性物品1の後端縁を規定する。中央域S1と前

側域 S 2 の境界はウイング 3 の前端縁に相当する。ウイング 3 の前端縁は、ウイング 3 の付け根であり、ウイング 3 において最も幅方向 W の内側に窪んだ 2 つの部分のうち、前側に位置する部分である。ウイング 3 の前側の付け根は、中央域 S 1 と前側域 S 2 との境界に位置してもよい。前側域 S 2 の前端縁は吸収性物品 1 の前端縁を規定する。

[0016] 吸収性物品 1 は、肌面シート 10、非肌面シート 20 及び吸収体 30 を有する。肌面シート 10 は、吸収体 30 よりも肌対向面側 T 1 に設けられる。非肌面シート 20 は、吸収体 30 よりも非肌対向面側 T 2 に設けられる。吸収体 30 は、肌面シート 10 と非肌面シート 20 との間に設けられる。

[0017] 肌面シート 10 は、表面シート 11 とサイドシート 12 を有してよい。表面シート 11 は、体液等の液体を透過する液透過性のシートである。表面シート 11 は、吸収体 30 の少なくとも幅方向 W の中央を覆う。表面シート 11 は、前後方向 L に前側域 S 2 から後側域 S 3 まで延びていてよい。サイドシート 12 は、表面シート 11 の外側縁（幅方向 W の外側端部）を覆い、表面シート 11 よりも幅方向 W の外側に延びている。なお、本実施形態では、吸収性物品 1 はサイドシート 12 を有しているが、吸収性物品 1 はサイドシート 12 を有していなくてもよい。この場合、表面シート 11 は吸収体 30 全体を覆っていてよい。

[0018] 表面シート 11 は、不織布、織布、有孔プラスチックシート、メッシュシート等、液体を透過する構造を有する任意のシート状の材料から構成される。織布や不織布の素材としては、天然繊維、化学繊維のいずれも使用できる。

[0019] サイドシート 12 は、表面シート 11 と同様の材料から選ぶことができる。但し、サイドシート 12 を乗り越えて吸収性物品 1 の外方へ体液が流出することを防止するためには、サイドシート 12 は、疎水性又は撥水性を有することが好ましい。サイドシート 12 は、吸収体 30 の外側縁、ウイング 3 及びヒップフラップ 4 に配置されている。

[0020] 非肌面シート 20 は、液不透過性のシートである。非肌面シート 20 は、

ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、スパンボンド、又はスパンレース等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシートなどを用いることができる。

[0021] 吸収体 30 は、吸収材料が積層された吸収コア 31 と、吸収コア 31 を覆うコアラップ 32 と、を有する。吸収材料は、例えば、親水性繊維、パルプ及び SAP から形成できる。

[0022] 吸収コア 31 は、少なくとも中央域 S1 と後側域 S3 に配置される。なお、吸収コア 31 は、中央域 S1 と後側域 S3 のそれぞれに別個に配置されていてもよいし、中央域 S1 と後側域 S3 に跨って一体的に配置されていてもよい。また、吸収コア 31 は、中央域 S1 から前側域 S2 にまで延びていてもよい。

[0023] 吸収コア 31 は、吸収コア 31 の外側縁 31E よりも幅方向 W の内側に位置する中高部 33 を有する。吸収コアの中高部 33 の厚みは、中高部 33 のまわりの吸収コアの厚みよりも厚い。中高部 33 は、中央域 S1 に位置してよい。中高部 33 の吸収材料の目付は、中央域 S1 における吸収コア 31 の外側縁 31E に位置する吸収材料の目付よりも高くてもよい。中高部 33 は、中央域 S1 内の後側に位置し、幅スリット 41 に隣接してよい。

[0024] 後側域 S3 に配置される吸収コア 31 の後縁 39 は、吸収性物品の幅方向 W における後述の一对の後側圧搾部 84 が形成されている領域 R1 内で、幅方向の外側から内側に向かうにつれて前側に傾斜してよい。この後縁 39 の傾斜部は、後述の前後スリット 42 と繋がっていてもよい。

[0025] 前述したように、吸収性物品 1 は、ウイング 3 及びヒップフラップ 4 を有する。ウイング 3 及びヒップフラップ 4 は、中央域 S1 の吸収コア 31 の外側縁 31E よりも幅方向 W の外側に延出してよい。

[0026] ウイング 3 は、サイドシート 12 と非肌面シート 20 を有してよい。ウイング 3 の前後方向 L の中心は、着用者の排泄口に対向する。ウイング 3 は、非肌面シート 20 側に折り返し可能に構成されている。ウイング 3 は、使用時に下着のクロッチ部の非肌対向面側に折り返される。

- [0027] ヒップフラップ4は、ウイング3よりも後側に位置し、後側域S3に設けられている。ヒップフラップ4は、使用時に折り返されず、下着と着用者の臀部との間に配置される。本実施形態では、ヒップフラップ4には吸収材料が設けられていない。この代わりに、ヒップフラップ4には、吸収材料が設けられていてもよい。
- [0028] ヒップフラップの外縁4Eは、多数の凸部を有する波形形状に形成されていてよい。多数の凸部は、一方のヒップフラップ4の外縁4Eから後側域S3の後端縁を経て他方のヒップフラップ4の外縁4Eまで延びていることが好ましい。この代わりに、多数の凸部は、一对のヒップフラップ4の外縁4Eのみに形成されていてもよい。各々の凸部の幅は、好ましくは20mm以下、より好ましくは10mm以下である。また、各々の凸部4Fの幅は、3mm以上であることが好ましい。
- [0029] 吸収性物品1の幅方向Wにおけるヒップフラップ4の幅は、ヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも前側の領域において、前側から後側に向かうにつれて実質的に大きくなっていてもよい。具体的には、ヒップフラップの外縁4Eの凸部4Fの形を考慮せず、ヒップフラップ4の全体的な形状が、ヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも前側の領域において、前側から後側に向かうにつれて大きくなっていることが好ましい。より具体的には、ヒップフラップ4の外縁4Eに形成された各々の凸部4Fの麓部を結んで得られる仮想線が、ヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも前側の領域において、前側から後側に向かうにつれて幅方向Wの外側に単調に膨らんでいてよい。
- [0030] また、吸収性物品1の幅方向Wにおけるヒップフラップ4の幅は、ヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも後側の領域において、前側から後側に向かうにつれて実質的に小さくなっていてもよい。この代わりに、吸収性物品1の幅方向Wにおけるヒップフラップ4の幅は、後述する粘着領域64よりも後側の領域において、前側から後側に向かうにつれて実質的に小さくなっていてもよい。具体的には、ヒップフラップの外縁4Eの凸部4Fの形を

考慮せず、ヒップフラップ４の全体的な形状が、粘着領域６４よりも後側の領域において、前側から後側に向かうにつれて単調に狭くなっている。より具体的には、ヒップフラップ４の外縁４Ｅに形成された各々の凸部４Ｆの麓部を結んで得られる仮想線が、粘着領域６４よりも後側の領域において、前側から後側に向かうにつれて幅方向Ｗの内側に単調に狭くなっている。なお、ヒップフラップの最大幅の位置Ｐ１は、前後方向Ｌにおける後側域Ｓ３の中央よりも後側に位置している。

[0031] ヒップフラップ４は、サイドシート１２と非肌面シート２０を有している。この代わりに、ヒップフラップ４はサイドシート１２を有していなくてもよい。この場合、表面シート１１がヒップフラップ４の領域まで延びていればよい。この場合、多数の凸部が形成された領域を、同一の枚数のシートによって構成することができる。

[0032] (２) 吸収コアのスリット

吸収コア３１は、幅スリット４１、前後スリット４２及び補助スリット４３を有している。幅スリット４１、前後スリット４２及び補助スリット４３は、吸収体３０を厚み方向Ｔに曲げることができるように形成されている。

[0033] 幅スリット４１、前後スリット４２及び補助スリット４３の吸収材料の目付は、それらのスリット４１、４２、４３のまわりの吸収コア３１の吸収材料の目付よりも低い。なお、幅スリット４１、前後スリット４２及び補助スリット４３は、吸収材料の目付が０の領域、すなわち吸収材料が設けられていない領域であってもよい。

[0034] 幅スリット４１、前後スリット４２及び補助スリット４３は、吸収性物品１の剛性が変化する境目となる。例えば、幅スリット４１よりも前側の領域の剛性は、幅スリット４１よりも後側の領域の剛性と異なっている。より詳細には、幅スリット４１よりも前側の領域の吸収材料の目付は、幅スリット４１の吸収材料の目付よりも高くてもよい。また、幅スリット４１よりも後側の領域の吸収材料の目付は、幅スリット４１の吸収材料の目付よりも高

くてよい。

[0035] 幅スリット41は、中央域S1と後側域S3との間で幅方向Wに延びる。幅スリット41は、少なくとも幅方向Wに延びていればよい。幅スリット41は、幅方向Wに平行に直線的に延びていてもよいし、幅方向Wに対して傾斜して直線的又は曲線的に延びていてもよい。

[0036] 本実施形態の幅スリット41は、幅スリット41の幅方向Wの中央が後方に突出した曲線形状である。より詳細には、幅スリット41の幅方向Wの中心は、幅スリット41の外側縁よりも後方に位置する。幅スリット41の前後方向Lにおける長さは、一定であってもよいし、変化していてもよい。幅スリット41の前後方向Lの長さは、吸収性物品の幅方向Wの中心を通る中心線CLの位置で、好ましくは10mm以上かつ50mm以下であり、より好ましくは10mm以上かつ30mm以下である。これにより、吸収体30が幅スリット41のところで着用者の肌に沿って曲がり易くなり、吸収体30を着用者の肌にフィットさせることができる。

[0037] 幅スリット41の幅方向の長さは、25mm以上であることが好ましい。これにより、吸収性物品1の中央域S1の動きが、後側域S3に伝わることを抑制できる。

[0038] 幅スリット41は、吸収コア31の幅方向Wの一端から他端まで延びていてもよい。この場合、幅スリット41の幅方向Wの外側縁は、吸収コア31の外側縁31Eに位置する。これにより、中央域S1の吸収コア31は、幅スリット41によって後側域S3の吸収コア31から分断される。この代わりに、幅スリット41は、中心線CLを跨ぎ、かつ吸収コア31の幅方向Wに部分的に延びていてもよい。

[0039] 前後スリット42は、後側域S3において、吸収性物品の中心線CLに沿って前後方向Lに延びる。前後スリット42は、前後方向Lに平行に直線的に延びていてもよいし、前後方向Lに対して傾斜して直線的又は曲線的に、中心線CLに沿って延びていてもよい。前後スリット42は、後側域S3の吸収コア31の前後方向Lの全域に形成されていてもよい。この代わりに、

前後スリット42は、後側域S3の吸収コア31の前後方向の一部の領域に形成されていてもよい。

[0040] 前後スリット42の前端縁は、ウイング3の前後方向Lの中心から30mm以上後方に位置することが好ましい。前後スリット42の後端縁は、ウイング3の前後方向Lの中心から200mm以上後方に位置することが好ましい。前後スリット42の前後方向Lの長さは、150mm以上であることが好ましい。着用者の身体の前後方向Lに沿った断面において、臀部間の溝（臀裂）は、会陰部よりも後方から尾てい骨に至る領域に存在する。前後スリット42は、前後スリットを頂点として凸状に吸収体30を変形させ易くする。すなわち、吸収体30が臀部間の溝にフィットするように変形し易くなる。

[0041] 好ましくは、前後スリット42の幅方向Wの長さは、1mm以上かつ15mm以下である。これにより、臀部間の溝にフィットするように吸収体30を変形させ易くすることができる。

[0042] 前後スリット42は、幅スリット41と繋がっていてもよい。この場合、平面視にて、中央域S1の吸収コア31と、後側域S3の幅方向Wの一方側の吸収コア31と、後側域S3の幅方向Wの他方側の吸収コア31とは、分断されている。この代わりに、前後スリット42は、幅スリット41と離間していてもよい。

[0043] 補助スリット43は、前後スリット42に繋がっており、かつ前後スリット42から幅方向Wの外側に延びる。補助スリット43は、少なくとも幅方向Wに延びていればよい。補助スリット43は、幅方向Wに平行に直線的に形成されていてもよいし、幅方向Wに対して傾斜して直線的又は曲線的に形成されていてもよい。補助スリット43は、幅方向Wの内側から外側に向かってつれて前側に傾斜していることが好ましい。補助スリット43は、前後スリット42の幅方向Wの両側にそれぞれ延びている。補助スリット43は、前後方向Lに間隔を空けて複数設けられていてよい。

[0044] 補助スリット43の幅方向Wの外側縁は、後側域S3の吸収コア31の外

側縁よりも内側に位置する。すなわち、補助スリット４３の幅方向の外側には、吸収材料が設けられている。この代わりに、補助スリット４３は、後側域Ｓ３の吸収コア３１の外側縁まで延びていてもよい。

[0045] 補助スリット４３は、後側域Ｓ３の吸収体３０が厚み方向Ｔに曲がる変形基点を構成する。すなわち、吸収性物品１は補助スリット４３のところで曲がり易くなっている。これにより、吸収性物品１が着用者に取り付けられたときに、吸収体３０が、着用者の湾曲した臀部によりフィットし易くなる。

[0046] (３) 圧搾部

吸収性物品１は、少なくとも吸収コア３１が厚み方向Ｔに圧搾されることによって形成された圧搾部を有する。この圧搾部は、前側圧搾部８１と、長手圧搾部８２と、一对の後側圧搾部８４と、を有してよい。

[0047] 前側圧搾部８１は、中央域Ｓ１及び前側域Ｓ２に設けられている。前側圧搾部８１は、吸収体３０と表面シート１１とが厚み方向Ｔに圧縮されることによって形成されていてよい。前側圧搾部８１は、中高部３３の幅方向Ｗ両側に設けられた前後方向Ｌに沿った部分を有する。前側圧搾部８１は、中高部３３の幅方向Ｗ両側の側縁を規定してよい。

[0048] 前側圧搾部８１は、吸収コア３１の前端縁付近で幅方向に向かって曲がっており、Ｕ字型に連続的に繋がっている。この代わりに、前側圧搾部８１は、中高部３３の幅方向Ｗ両側に、別個に設けられていても良い。すなわち、一对の前側圧搾部８１が、互いに分断された形態で、別個に設けられていても良い。

[0049] 長手圧搾部８２は、後側域Ｓ３で、中心線ＣＬを挟んで両側に設けられている。長手圧搾部８２は、ヒップフラップ４の最大幅の位置Ｐ１よりも前側に形成されていてよい。長手圧搾部８２は、吸収体３０と表面シート１１とが厚み方向に圧縮されることによって形成されていてよい。長手圧搾部８２は、補助スリット４３よりも幅方向Ｗの両外側において前後方向Ｌに延びる。長手圧搾部８２は、線状又は点線状に、少なくとも前後方向Ｌに延びていればよい。長手圧搾部８２は、前後方向Ｌに平行に直線的に延びていてもよ

いし、前後方向Lに対して傾斜して曲線的に延びていてもよい。

[0050] 一对の後側圧搾部84は、後側域S3で、中心線CLを挟んで両側に設けられている。後側圧搾部84は、吸収体30と表面シート11とが厚み方向に圧縮されることによって形成されていてよい。一对の後側圧搾部84は、吸収性物品の幅方向Wの中心を通る中心線CLを挟んで互いに離間して設けられている。一对の後側圧搾部84は、幅方向Wにおけるヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも後側に位置する。好ましくは、一对の後側圧搾部84は、後側域S3の後側の端部付近に位置する。具体的には、一对の後側圧搾部84は、着用者の仙骨に対向する領域近傍に位置する。後側圧搾部84は、前後方向Lに沿って線状又は点線状に延びていてよい。なお、前後方向Lに対して多少傾斜又は湾曲していても、後側圧搾部84は、前後方向Lに沿って延びていると見なす。具体的には、一对の後側圧搾部84は、部分的又は全体的に前後方向Lに沿って延びていてよい。一对の後側圧搾部84は、後側に向かうにつれて幅方向Wの距離が広がる幅広区間を有する。すなわち、後側圧搾部84は、後側へ向かうにつれて、幅方向Wの外側に傾斜している。

[0051] 図1に示す実施形態では、一对の長手圧搾部82は、一对の後側圧搾部84から離れて配置されている。一对の長手圧搾部82と一对の後側圧搾部84との間の距離は、好ましくは少なくとも1cm、より好ましくは少なくとも3cmである。一对の長手圧搾部82と一对の後側圧搾部84との間の、圧搾部が形成されていない区間は、ヒップフラップの最大幅の位置P1を跨っていてもよい。

[0052] 後側域S3に設けられた吸収コア31の一部は、幅広区間によって挟まれた幅広領域R1内に配置される。また、前後スリット42の一部が、幅広領域R1を延びていることが好ましい。前後スリット42は、前後方向Lに沿って幅広領域R1を貫いていることがより好ましい。

[0053] 吸収性物品1は、肌面シート10及び非肌面シート20を構成するシートのうちの少なくとも2枚を厚み方向Tに圧縮することによって形成された第

１の圧搾部８５、第２の圧搾部８７及び第３の圧搾部８６を有する。第１の圧搾部８５、第２の圧搾部８７及び第３の圧搾部８６は、少なくともヒップフラップ４の外縁４Ｅに沿って形成されている。

[0054] （４）粘着領域

図２に示すように、吸収性物品１は、吸収性物品１を下着Ｓに止めるための粘着剤が設けられた第１本体粘着領域６１、第２本体粘着領域６２、ウイング粘着領域６３及びヒップフラップ粘着領域６４を有する。これらの粘着領域６１～６４は、非肌面シート２０の非肌対向面に設けられている。粘着領域６１～６４は、使用前の状態において、剥離シートによって覆われていてもよい。剥離シートは、使用前に粘着領域６１～６４の粘着剤の劣化を防止する。剥離シート６５、使用時に、着用者によって剥離される。

[0055] 第１本体粘着領域６１は、第２本体粘着領域６２よりも前方に配置されている。第１本体粘着領域６１は、第２本体粘着領域６２から前後方向Ｌに離間して配置されている。第１本体粘着領域６１は、幅スリット４１よりも前側で、中央域Ｓ１と前側域Ｓ２に跨って配置されていてよい。第２本体粘着領域６２は、幅スリット４１よりも後側で、後側域Ｓ３に配置されている。ウイング粘着領域６３はウイング３に設けられている。ヒップフラップ粘着領域６４はヒップフラップ４に設けられている。

[0056] 幅スリット４１及び前後スリット４２は、厚み方向Ｔにおいて、すべての粘着領域６１～６４と重なっていない。言い換えると、平面視にて、幅スリット４１及び前後スリット４２が配置された領域には、粘着領域６１～６４が設けられていない。また、一対の後側圧搾部８４によって挟まれた幅広領域Ｒ１は、粘着領域６１～６４と重ならない領域に配置されていてよい。

[0057] 第１の圧搾部８５、第２の圧搾部８７及び第３の圧搾部８６は、ヒップフラップ４の外縁４Ｅとヒップフラップ粘着領域６４との間を通して延びている。ヒップフラップ粘着領域６４よりも幅方向Ｗの外側には、粘着領域が設けられていないことが好ましい。

[0058] （５）着用中の吸収性物品

生理用ナプキンとしての吸収性物品 1 を着用する際、吸収性物品 1 は下着 S に固定される。着用された状態の吸収性物品 1 の中央域 S 1 は、装着者の両足によって挟まれ、幅方向 W の外側から幅方向 W の内側に向かう力を受ける。

[0059] 吸収性物品 1 の幅方向 W に沿った着用者の身体の断面形状は、股下近傍と臀部近傍とで異なる。具体的には、着用者の股下の陰裂(経血が出る膣口あたり)近辺の身体の断面形状は、大陰唇が大陰唇の付け根よりも出っ張っており、吸収性物品 1 側に突出する凸形状である。この着用者の股下域に、吸収性物品の中央域 S 1 が対向して配置される。吸収性物品 1 は、下着 S に装着され、かつ着用者に着用された状態で、中央域 S 1 の吸収コアが大陰唇の出っ張りに押し下げられ、非肌対向面側に隆起するように変形する。着用者の股下においては、中央域 S 1 の吸収コアが身体に沿って配置され、股下における漏れを抑制できる。

[0060] また、着用者の大陰唇より後方に位置する会陰部よりも後方には、肛門や臀裂が位置する。この会陰部よりも後方近辺の幅方向に沿った身体の断面形状は、幅方向の中心が窪んだ形状である。この着用者の臀部に、吸収性物品の後側域 S 3 が対向して配置される。

[0061] 図 4 は着用者に装着された状態の吸収性物品の後側域 S 3 の断面図である。図 4 は、図 1 の 4 A - 4 A 線に沿った断面に相当する。なお、図 4 において、着用者の身体を示すラインが二点鎖線で示されている。例えば夜用の生理用ナプキンは、仰向けの寝姿勢で使用されることが多い。体液の漏れの大半は、一回に多量に経血が排出されて、膣口の直下における経血の吸収が間に合わなかった場合や、膣口の直下に位置する吸収体が身体にフィットしていなかった場合に、臀部より窪んだ部分に経血が流れ込み、当該経血が身体を伝って漏れるものである。身体の臀部と吸収性物品の間に隙間が生じていると、経血が身体を伝わって背側後方に伝わり、吸収性物品の後ろから漏れてしまうおそれがある。

[0062] 本実施の形態の吸収性物品は、後側域 S 3 において吸収コア 3 1 の側部が

左右の臀部によって押し下げられる。よって、後側域の吸収コアの幅方向の側部には、後側域の吸収コア 3 1 の幅方向の中央よりも力がかかる。吸収コアの側部が左右の臀部によって押し下げされると、後側域の吸収体の幅方向の中央は、前後スリット 4 2 を頂点として着用者側に隆起する。よって、後側域 S 3 の吸収コア 3 1 の幅方向の中央が臀部間の窪みに配置され易く、より着用者の臀部に沿って吸収コア 3 1 をフィットできる。その結果、経血等の体液が身体を伝わって背側後方に伝わり流れ、吸収性物品の後ろから漏れることを防止できる。

[0063] 着用者の臀裂は、後方（背中側）に向かうにつれて浅くなる。また、臀裂よりも後方には、仙骨が存在する。仙骨が存在する領域の身体の断面形状は、臀裂が存在する領域よりも平坦な形状である。吸収性物品 1 の後側域 S 3 の後方に設けられた幅広領域 R 1、又は幅広領域 R 1 よりも後方の領域が、この着用者の仙骨の部分に対向して配置される。

[0064] 図 5 は、図 1 の 5 A－5 A 線に沿った断面に相当する。前述したように、後側域 S 3 の比較的前側の領域は、前後スリット 4 2 を頂点として着用者側に隆起する。このような変形にともなって、後側域 S 3 の比較的后側の領域の幅方向 W の中央部が隆起しようとする。ここで、吸収コア 3 1 の変形の起点となる一对の後側圧搾部 8 4 が設けられているため、幅広領域 R 1 内では、吸収コア 3 1 が比較的平坦な面 F S を形成する。

[0065] （6）別の実施形態

図 6 は、別の実施形態に係る吸収性物品の平面図である。図 6 において、上述の実施形態と同じ構成については、同じ符号が付されている。以下では、主に、上述の実施形態と異なる構成について説明する。

[0066] 図 6 に示す吸収性物品では、前後スリット 4 2 の長さと、後側域 S 3 に配置された吸収コア 3 1 の後縁 3 9 の形状が、図 1 に示す吸収性物品 1 と異なっている。図 6 に示す吸収性物品では、前後スリット 4 2 は、後側域 S 3 に配置された吸収コア 3 1 の後縁 3 9 まで延びていない。

[0067] 後側域 S 3 に配置される吸収コア 3 1 の後縁 3 9 は、吸収性物品の幅方向

Wにおける後述の一对の後側圧搾部84が形成されている幅広領域R1内で、幅方向の外側から内側に向かうにつれて前側に傾斜している。さらに、この後縁39の傾斜部は幅広領域R1内に達しており、幅広領域R1内で後方スリット44を形成している。後方スリット44は、幅広領域R1の一部に設けられている。この代わりに、後方スリット44は、中心線に沿って幅広領域R1を前後方向Lに貫いていてもよい。

[0068] 後方スリット44は、吸収材料の目付が0の領域、すなわち吸収材料が設けられていない領域であってよい。この代わりに、後方スリット44は、スリット44のまわりの吸収コア31の吸収材料の目付よりも低い吸収材料が設けられた領域であってもよい。

[0069] 図7は、さらに別の実施形態に係る吸収性物品の平面図である。図7において、上述の実施形態と同じ構成については、同じ符号が付されている。以下では、主に、上述の実施形態と異なる構成について説明する。

[0070] 図7に示す吸収性物品では、後側域に設けられた長手圧搾部82が、前後方向Lに長く延びており、後側域の後方に設けられた後側圧搾部84と繋がっている。この場合、長手圧搾部82は、ヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも前側の部分を指すものとする。また、後側圧搾部84は、ヒップフラップ4の最大幅の位置P1よりも後側の部分を指すものとする。

[0071] 後側圧搾部84は、幅方向Wの中心線CLを挟んで両側に設けられている。一对の後側圧搾部84間の間隔は、後側へ向かうにつれて一端減少し、さらに後側へ向かうにつれて広がっている。このように、一对の後側圧搾部84は、後側に向かうにつれて幅方向Wの距離が広がる幅広区間を有する。この一对の後側圧搾部84の幅広区間によって挟まれた領域が、幅広領域R1に相当する。この場合であっても、図5で説明したように、幅広領域R1が比較的平坦な面FSに形成される。

[0072] (7) 作用・効果

一実施形態によれば、一对の後側圧搾部84は、幅方向におけるヒップフラップの最大幅の位置よりも後側に位置し、一对の後側圧搾部84は、後側

に向かうにつれて幅方向の距離が広がる幅広区間を有する。幅方向におけるヒップフラップの最大幅は、前後方向における後側域の中央よりも後側に位置している。

[0073] 幅広区間によって挟まれた幅広領域 R 1 は、着用者の仙骨付近に相当する。この領域に圧搾部が存在せず、この領域の両側に比較的剛性の高い一对の圧搾部 8 4 が存在する。これより、幅広領域 R 1 は、比較的平坦な面 F S に維持される。比較的平坦な面 F S が仙骨付近の皮膚にあたることから、着用者の肌に与える影響を軽減することができる。

[0074] 一对の圧搾部 8 4 は、仙骨付近に対向する領域と、臀部の肉厚部に対向する部分との間を仕切るように配置されている。臀部は比較的激しく動くため、吸収性物品 1 の臀部に対向する部分も着用者の動きに応じて動きやすい。この吸収性物品 1 の移動は、比較的剛性の高い一对の圧搾部 8 4 によって、仙骨に対向する領域、すなわち幅広領域 R 1 に伝わりにくくなっている。その結果、幅広領域 R 1 を比較的平坦な面 F S に維持することができ、着用者の肌に与える影響を軽減することができる。また、幅広領域 R 1 内には剛性の高い圧搾部がないことが好ましい。これにより、着用者の肌へ与える影響をより緩和することができる。

[0075] 一実施形態によれば、吸収性物品 1 は、吸収コア 3 1 よりも非肌対向面側に設けられた非肌面シート 2 0 と、非肌面シート 2 0 の非肌対向面に設けられた粘着領域 6 1 ~ 6 4 と、を有する。さらに、一对の圧搾部 8 4, 1 8 4 の幅広区間によって挟まれた領域 R 1 は、粘着領域 6 1 ~ 6 4 と重ならない領域に配置されている。吸収性物品 1 は、着用者と下着との間に挟まれた状態で使用される。下着に貼り付けられる粘着領域 6 1 ~ 6 4 は、着用者と下着との間で互いに擦れるため、皺が発生し易い。一実施形態では、幅広領域 R 1、すなわち仙骨に対向する領域は、粘着領域 6 1 ~ 6 4 と重ならない。これにより、吸収性物品 1 の、仙骨に対向する領域に、皺が発生することが抑制される。その結果、吸収性物品 1 の、仙骨に対向する領域を、よりフラットな形状に維持することができる。

[0076] 一実施形態によれば、後側域S 3に配置される吸収コア3 1は、吸収性物品1の前後方向Lの後縁から、幅広領域R 1内へ延びるスリット4 2又は4 4を有し、このスリットは吸収材料が設けられていない領域、又は後側域S 3に配置される吸収コア3 1よりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる。吸収性物品の後側域S 3に幅方向Wの外側から内側へ両方向に力が加えられたとき、吸収性物品1の中心線C Lよりも左側の吸収コア3 1は、右側へ移動しようとする。一方で、中心線C Lよりも右側の吸収コア3 1は、左側へ移動しようとする。これにより、吸収コア3 1は、力の衝突によって、中心線C L付近で歪に変形するおそれがある。一実施形態では、幅広領域R 1内へ延びるスリット4 2又は4 4によって、この力の衝突を緩和することができる。その結果、幅広領域R 1の形状が崩れることを抑制し、幅広領域R 1をより平坦な面に維持することができる。

[0077] 一実施形態によれば、後側域S 3に配置される吸収コア3 1は、吸収性物品1の幅方向Wの中心を通る中心線C Lに沿って延びる前後スリット4 2を有し、前後スリット4 2は吸収材料が設けられていない領域、又は後側域S 3に配置される吸収コア3 1よりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる。前述のように、後側域S 3において吸収コア3 1の側部が左右の臀部によって押し下げられる。吸収コアの側部が左右の臀部によって押し下げされると、後側域の吸収体の幅方向の中央は、前後スリット4 2を頂点として着用者側に隆起する。よって、後側域S 3の吸収コア3 1の幅方向の中央が臀部間の窪みに配置され易く、より着用者の臀部に沿って吸収コア3 1をフィットできる。その結果、経血等の体液が身体を伝わって背側後方に伝わり流れ、吸収性物品の後ろから漏れることを防止できる。

[0078] この吸収コア3 1の変形は、一对の圧搾部8 4の幅広領域R 1に影響を与える。これにより、幅広領域R 1、すなわち仙骨に対向する領域は、比較的平坦な面F Sを維持したまま、着用者の肌に向けて若干隆起する（図5も参照）。これにより、後側域S 3の後方の領域も、着用者の肌に沿い易くなる。

[0079] 一実施形態によれば、少なくとも吸収コア 31 を圧搾し、中心線 CL を挟んで両側に設けられた一对の長手圧搾部 82 が、後側域 S3 で、ヒップフラップ 4 の最大幅の位置よりも前側に形成されている。一对の長手圧搾部 82 が吸収コア 31 の変形の基点となり、前後スリット 42 の領域を着用者側に隆起させる。これにより、中央域 S1 の後方に位置する後側域 S3 において、着用者の臀部間の隙間に吸収体 30 をフィットさせ易くすることができる。

[0080] 一実施形態によれば、一对の長手圧搾部 82 は、一对の後側圧搾部 84 から離れて配置されている。これにより、後側域 S3 の後方の吸収コアの動きが、後側域 S3 の前方の吸収コアの動きに追従することを抑制することができる。特に、後側域 S3 の前方の吸収コアは着用者のおしりの動きに合わせて比較的大きく動くことがある。この場合であっても、図 1 に示すように一对の長手圧搾部 82 と一对の後側圧搾部 84 とが互いに離間しているため、後側域 S3 の後方の吸収コアの動きが緩和される。したがって、幅広領域 R1 の吸収コアの動きが緩和されるため、着用者の仙骨付近に与える刺激を低下することができる。

[0081] 一実施形態によれば、中央域 S1 に配置される吸収コアと後側域 S3 に配置される吸収コアとの間に吸収性物品の幅方向 W に沿って延びる幅スリット 41 が設けられている。幅スリット 41 は吸収材料が設けられていない領域、又は中央域及び後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる。幅スリット 41 と中央域 S1 の吸収コアとの境界は、吸収性物品の変形起点になり得る。同様に、幅スリット 41 と後側域 S3 の吸収コアとの境界は、吸収性物品の変形起点になり得る。この幅スリット 41 により、吸収性物品 1 は、着用者の臀部の膨らみが押し潰された際に、臀部の変形に沿って柔軟に変形し得る。また、幅スリット 41 は吸収材料が設けられていない領域、又は中央域及び後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなるため、柔軟に変形し易い。着用者の臀部の潰れた部分が股下側に移動した際に、幅スリット 41 によっ

て臀部の変形が吸収され、幅スリット41の前後の領域を着用者に当て続け易くなる。さらに、幅スリット41によって、中央域S1の吸収コアにかかった力が、後側域S3の吸収コアに伝播することを抑制できる。

[0082] 一実施形態によれば、中央域S1に配置される吸収コアは、吸収コアの外側縁よりも幅方向の内側に位置し、吸収コアの外側縁の厚みよりも厚い中高部33を有する。好ましくは、中高部33は、幅スリット41に隣接している。これにより、幅スリット41と中央域S1の吸収コアとの境界が、より曲がり易くなり、より明確な変形起点が形成される。したがって、吸収性物品1をより着用者の体にフィットさせ易くなる。

[0083] 一実施形態によれば、後側域S3に配置される吸収コア31の後縁39は、吸収性物品1の幅方向Wにおける一对の圧搾部84が形成されている領域R1内で、幅方向Wの外側から内側に向かうにつれて前側に傾斜している。吸収性物品の後側域S3に幅方向Wの外側から内側へ両方向に力が加えられたとき、吸収性物品1の中心線CLよりも左側の吸収コア31は、右側へ移動しようとする。一方で、中心線CLよりも右側の吸収コア31は、左側へ移動しようとする。これにより、吸収コア31の幅広領域R1が、力の衝突によって、中心線CL付近で歪に変形するおそれがある。一実施形態では、吸収コア31の後縁39は、吸収性物品1の幅方向Wにおける幅広領域R1内で、幅方向Wの外側から内側に向かうにつれて前側に傾斜している。この傾斜により、吸収コア31の後縁39において、左側と右側の吸収コア31が互いに衝突し難くなり、前記力が緩和される。このように、力の衝突を緩和することができるため、幅広領域R1の形状が崩れることが抑制される。その結果、幅広領域R1をより平坦な面に維持することができる。

[0084] 以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とする

ものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0085] なお、2015年6月8日に出願された日本国特許出願第2015-116102号の全内容が、参照により、本明細書に組み込まれる。

産業上の利用可能性

[0086] 仙骨付近の皮膚に対する刺激を緩和することができる吸収性物品を提供することができる。

符号の説明

[0087] 1 : 吸収性物品
3 : ウイング
4 : ヒップフラップ
10 : 肌面シート
11 : 表面シート
12 : サイドシート
20 : 非肌面シート
30 : 吸収体
31 : 吸収コア
31E : 外側縁
32 : コアラップ
41 : 幅スリット
42 : 前後スリット
43 : 補助スリット
61 : 第1本体粘着領域
62 : 第2本体粘着領域
63 : ウイング粘着領域
64 : ヒップフラップ粘着領域
81 : 前側圧搾部
82 : 長手圧搾部
84 : 後側圧搾部

L	: 前後方向
T	: 厚み方向
T 1	: 肌対向面側
T 2	: 非肌対向面側
W	: 幅方向
S 1	: 中央域
S 2	: 前側域
S 3	: 後側域
C L	: 中心線
R 1	: 幅広領域

請求の範囲

- [請求項1] 互いに直交する前後方向及び幅方向と、
着用者の股下に配置される中央域と、
前記中央域の後側に位置し、前記中央域よりも前後方向の長さが長い後側域と、
少なくとも前記後側域に配置される吸収コアと、を有し、
前記後側域には、前記幅方向の外側に膨らんだヒップフラップが設けられており、
少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記吸収性物品の前記幅方向の中心を通る中心線を挟んで互いに離間して設けられた一対の後側圧搾部が、前記後側域に前記前後方向に沿って形成されており、
前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅は、前記前後方向における前記後側域の中央よりも後側に位置しており、
前記一対の後側圧搾部は、前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅の位置よりも後側に位置し、
前記一対の後側圧搾部は、後側に向かうにつれて前記幅方向の距離が広がる幅広区間を有する、吸収性物品。
- [請求項2] 前記吸収コアよりも非肌対向面側に設けられた非肌面シートと、
前記非肌面シートの非肌対向面に設けられた粘着領域と、を有し、
前記幅広区間によって挟まれた領域は、前記粘着領域と重ならない領域に配置されている、請求項1に記載の吸収性物品。
- [請求項3] 前記後側域に配置される吸収コアは、前記吸収コアの後縁から、前記幅広区間によって挟まれた領域内へ延びるスリットを有し、前記スリットは吸収材料が設けられていない領域、又は前記後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる、請求項1又は2に記載の吸収性物品。
- [請求項4] 前記後側域に配置される吸収コアは、前記中心線に沿って延びる前後スリットを有し、前記前後スリットは吸収材料が設けられていない

領域、又は前記後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項5] 少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記中心線を挟んで両側に設けられた一对の長手圧搾部が、前記後側域で、前記ヒップフラップの前記最大幅の位置よりも前側に形成されている、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項6] 前記一对の長手圧搾部は、前記一对の後側圧搾部から離れて配置されている、請求項 5 に記載の吸収性物品。

[請求項7] 前記吸収コアは、前記中央域にも配置されており、
前記中央域に配置される吸収コアと前記後側域に配置される吸収コアとの間に前記吸収性物品の幅方向に沿って延びる幅スリットが設けられており、前記幅スリットは吸収材料が設けられていない領域、又は前記中央域及び前記後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる、請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項8] 前記吸収コアは、前記中央域にも配置されており、
前記中央域に配置される吸収コアは、前記吸収コアの外側縁よりも前記幅方向の内側に位置し、前記吸収コアの外側縁の厚みよりも厚い中高部を有する、請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項9] 前記吸収コアは、前記中央域にも配置されており、
前記中央域に配置される吸収コアの外側縁よりも前記幅方向の外側に延出したウイングをさらに有する、請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

[請求項10] 前記後側域に配置される吸収コアの後縁は、前記吸収性物品の幅方向における前記一对の圧搾部が形成されている領域内で、前記幅方向の外側から内側に向かうにつれて前側に傾斜している、請求項 1 から

9 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

補正された請求の範囲
[2016年9月14日(14.09.2016) 国際事務局受理]

[請求項1] (補正後)

- 互いに直交する前後方向及び幅方向と、
- 5 着用者の股下に配置される中央域と、
- 前記中央域の後側に位置し、前記中央域よりも前後方向の長さが長い後側域と、
- 少なくとも前記後側域に配置される吸収コアと、を有し、
- 前記後側域には、前記幅方向の外側に膨らんだヒップフラップが設けられており、
- 10 少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記吸収性物品の前記幅方向の中心を通る中心線を挟んで互いに離間して設けられた一对の後側圧搾部が、前記後側域に前記前後方向に沿って形成されており、
- 前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅は、前記前後方向における前記後側域の中央よりも後側に位置しており、
- 15 前記一对の後側圧搾部は、前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅の位置よりも後側に位置し、
- 前記一对の後側圧搾部は、後側に向かうにつれて前記幅方向の距離が広がる幅広区間を有し、
- 少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記中心線を挟んで両側に設けられた一对
- 20 の長手圧搾部が、前記後側域で、前記ヒップフラップの前記最大幅の位置よりも前側に形成されており、
- 前記一对の長手圧搾部は、前記一对の後側圧搾部から離れて配置されている、吸収性物品。

[請求項2] (補正後)

- 25 互いに直交する前後方向及び幅方向と、
- 着用者の股下に配置される中央域と、
- 前記中央域の後側に位置し、前記中央域よりも前後方向の長さが長い後側域と、
- 少なくとも前記後側域に配置される吸収コアと、を有し、
- 前記後側域には、前記幅方向の外側に膨らんだヒップフラップが設けられてお

り、

少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記吸収性物品の前記幅方向の中心を通る中心線を挟んで互いに離間して設けられた一対の後側圧搾部が、前記後側域に前記前後方向に沿って形成されており、

- 5 前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅は、前記前後方向における前記後側域の中央よりも後側に位置しており、

前記一対の後側圧搾部は、前記幅方向における前記ヒップフラップの最大幅の位置よりも後側に位置し、

- 10 前記一対の後側圧搾部は、後側に向かうにつれて前記幅方向の距離が広がる幅広区間を有し、

前記吸収コアよりも非肌対向面側に設けられた非肌面シートと、

前記非肌面シートの非肌対向面に設けられた粘着領域と、を有し、

前記幅広区間によって挟まれた領域は、前記粘着領域と重ならない領域に配置されている、吸収性物品。

- 15 [請求項3]

前記後側域に配置される吸収コアは、前記吸収コアの後縁から、前記幅広区間によって挟まれた領域内へ延びるスリットを有し、前記スリットは吸収材料が設けられていない領域、又は前記後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる、請求項1又は2に記載の吸収性物品。

- 20 [請求項4]

前記後側域に配置される吸収コアは、前記中心線に沿って延びる前後スリットを有し、前記前後スリットは吸収材料が設けられていない領域、又は前記後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる、請求項1から3のいずれか1項に記載の吸収性物品。

- 25 [請求項5] (補正後)

少なくとも前記吸収コアを圧搾し、前記中心線を挟んで両側に設けられた一対の長手圧搾部が、前記後側域で、前記ヒップフラップの前記最大幅の位置よりも前側に形成されている、請求項2に記載の吸収性物品。

[請求項6]

前記一对の長手圧搾部は、前記一对の後側圧搾部から離れて配置されている、請求項 5 に記載の吸収性物品。

[請求項 7]

前記吸収コアは、前記中央域にも配置されており、

- 5 前記中央域に配置される吸収コアと前記後側域に配置される吸収コアとの間に前記吸収性物品の幅方向に沿って延びる幅スリットが設けられており、前記幅スリットは吸収材料が設けられていない領域、又は前記中央域及び前記後側域に配置される吸収コアよりも目付の低い吸収材料が設けられた領域からなる、請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

10 [請求項 8]

前記吸収コアは、前記中央域にも配置されており、

前記中央域に配置される吸収コアは、前記吸収コアの外側縁よりも前記幅方向の内側に位置し、前記吸収コアの外側縁の厚みよりも厚い中高部を有する、請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

15 [請求項 9]

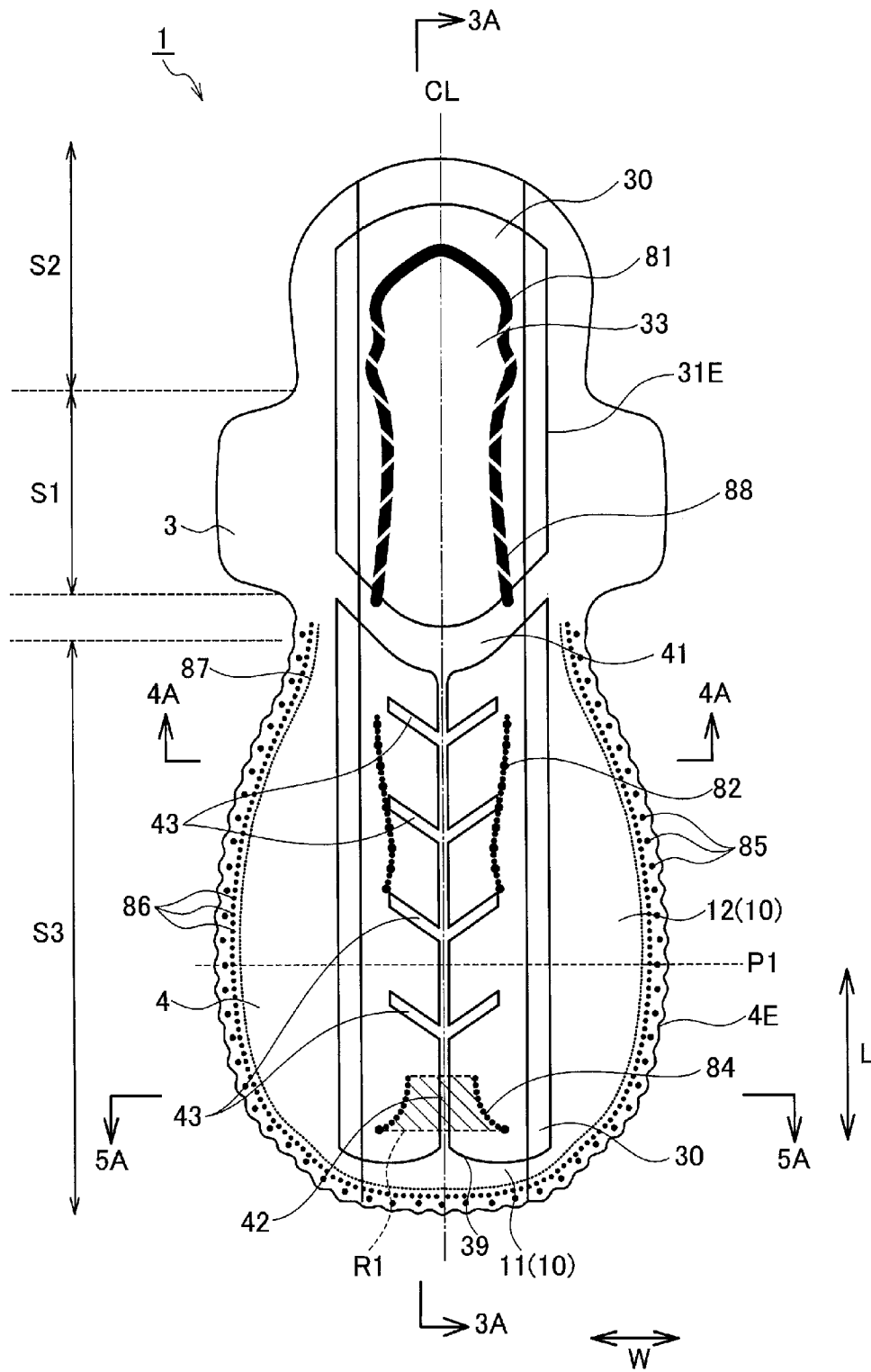
前記吸収コアは、前記中央域にも配置されており、

前記中央域に配置される吸収コアの外側縁よりも前記幅方向の外側に延出したウイングをさらに有する、請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

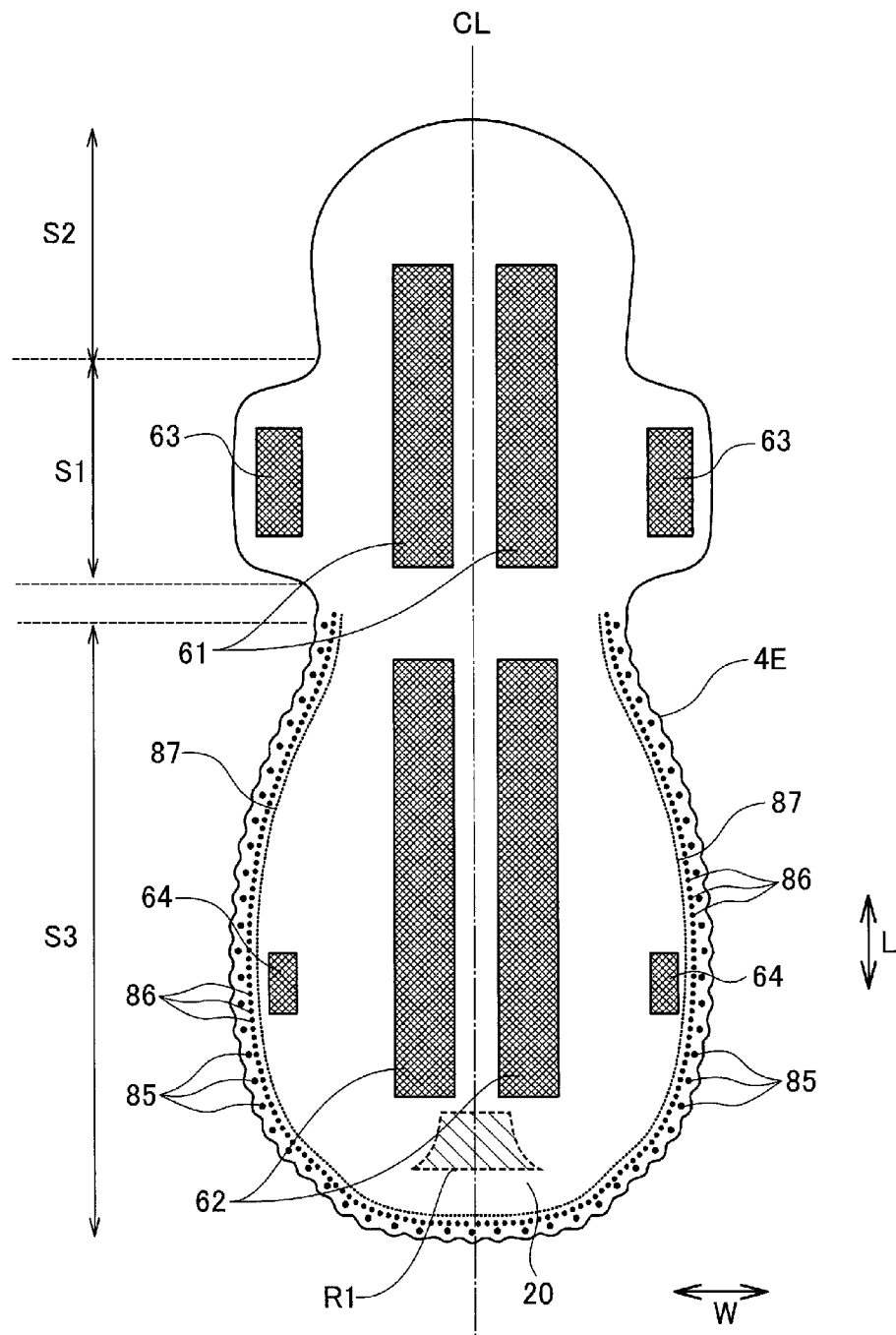
[請求項 10]

- 20 前記後側域に配置される吸収コアの後縁は、前記吸収性物品の幅方向における前記一对の圧搾部が形成されている領域内で、前記幅方向の外側から内側に向かうにつれて前側に傾斜している、請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の吸収性物品。

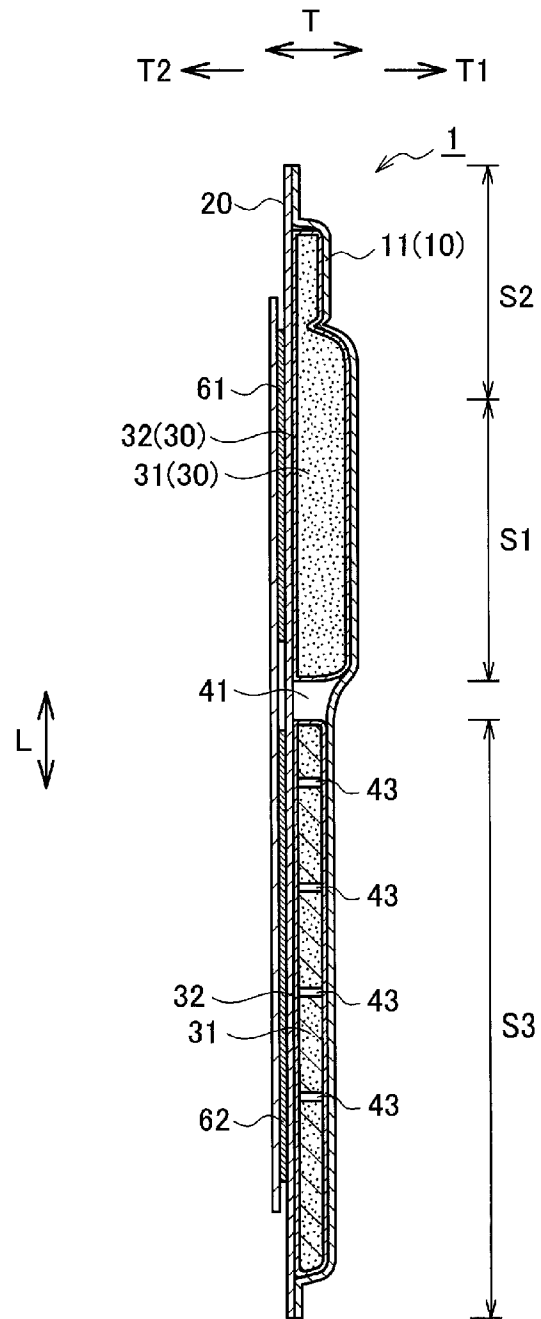
[図1]



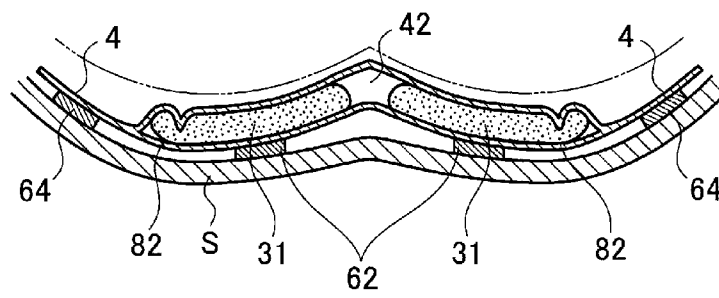
[図2]



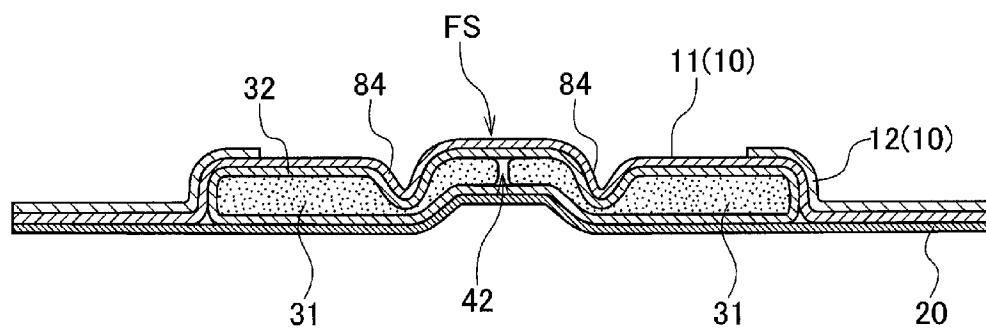
[図3]



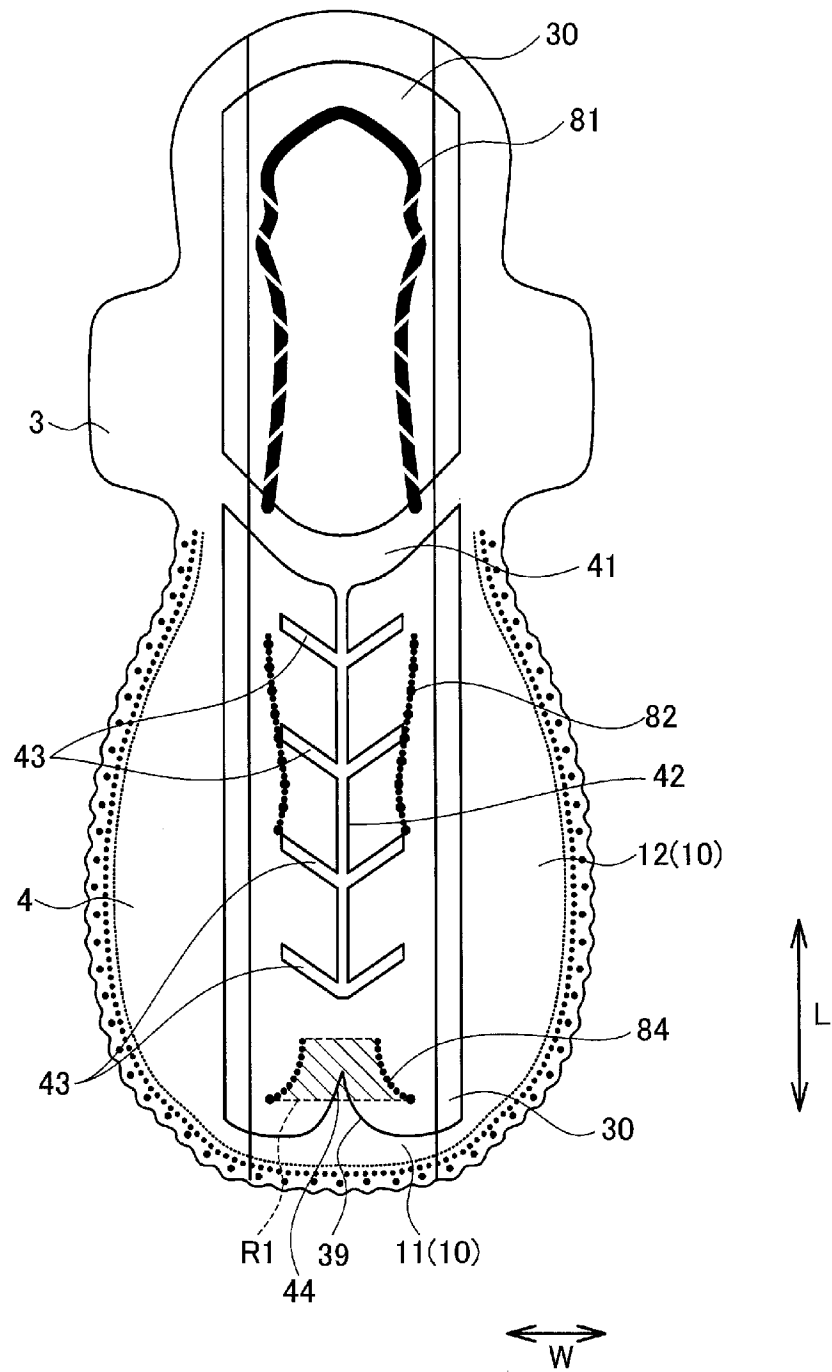
[図4]



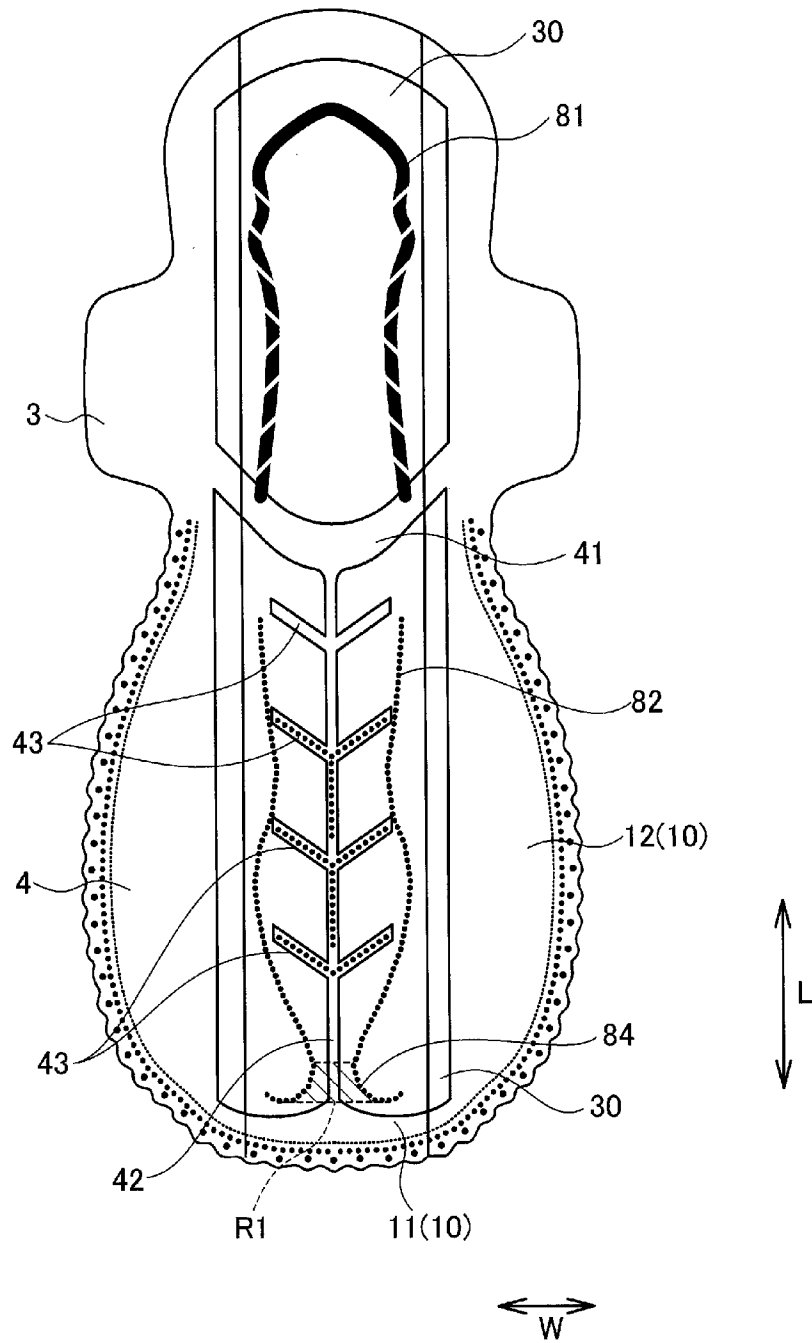
[図5]



[図6]



[図7]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2016/065937

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61F13/472(2006.01)i, A61F13/476(2006.01)i, A61F13/533(2006.01)i,
A61F13/56(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61F13/15-13/84, A61L15/16-15/64

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2016
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2016	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2016

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y A	JP 2012-50497 A (Daio Paper Corp.), 15 March 2012 (15.03.2012), paragraphs [0025], [0030], [0034], [0038], [0052], [0057]; fig. 1 & US 2013/0165885 A1 paragraphs [0030], [0035], [0041], [0045], [0059], [0064]; fig. 1 & WO 2012/029851 A1 & EP 2612636 A1 & CN 103079510 A & KR 10-2013-0094822 A	1, 4-5, 7-9 3, 10 2, 6
Y	JP 2009-77927 A (Uni-Charm Corp.), 16 April 2009 (16.04.2009), paragraph [0056]; fig. 6 & WO 2009/041223 A1 & TW 200934451 A	3-5, 7-10



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

25 July 2016 (25.07.16)

Date of mailing of the international search report

02 August 2016 (02.08.16)

Name and mailing address of the ISA/

Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2016/065937

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 10-201788 A (Kao Corp.), 04 August 1998 (04.08.1998), fig. 2, 5 (Family: none)	1, 5, 9
A	JP 2011-172658 A (Daio Paper Corp.), 08 September 2011 (08.09.2011), paragraphs [0057] to [0059]; fig. 11 (Family: none)	1-2, 5-6, 9
A	JP 2015-97715 A (Kao Corp.), 28 May 2015 (28.05.2015), paragraph [0034]; fig. 1 to 2 & WO 2015/076239 A	3-4, 7-9

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A61F13/472(2006.01)i, A61F13/476(2006.01)i, A61F13/533(2006.01)i, A61F13/56(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. A61F13/15-13/84, A61L15/16-15/64

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 6 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 6 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 6 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y A	JP 2012-50497 A (大王製紙株式会社) 2012.03.15, [0025], [0030], [0034], [0038], [0052], [0057], 図1 & US 2013/0165885 A1 [0030], [0035], [0041], [0045], [0059], [0064], 図1 & WO 2012/029851 A1 & EP 2612636 A1 & CN 103079510 A & KR 10-2013-0094822 A	1, 4-5, 7-9 3, 10 2, 6
Y	JP 2009-77927 A (ユニ・チャーム株式会社) 2009.04.16, [0056], 図6 & WO 2009/041223 A1 & TW 200934451 A	3-5, 7-10

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

2 5 . 0 7 . 2 0 1 6

国際調査報告の発送日

0 2 . 0 8 . 2 0 1 6

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)
郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

笹木 俊男

3 B

3 7 5 0

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 2 0

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリ*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 10-201788 A (花王株式会社) 1998. 08. 04, 図 2, 5 (ファミリーなし)	1, 5, 9
A	JP 2011-172658 A (大王製紙株式会社) 2011. 09. 08, [0057]-[0059], 図 11 (ファミリーなし)	1-2, 5-6, 9
A	JP 2015-97715 A (花王株式会社) 2015. 05. 28, [0034], 図 1-2 & WO 2015/076239 A	3-4, 7-9